

# こんにちは ブラインテックです

## 第51回 株式会社ジェイアール東日本建築設計事務所図書室 2009年4月

今回は、東京都の株式会社ジェイアール東日本建築設計事務所（以下JRE設計）を訪問しました。JRE設計は1989（平成元）年設立以来、駅舎やホテル、ショッピングセンターや鉄道博物館など、私たちに身近な施設の設計等を手がけており、「建築設計のシンクタンク」を目指す中で図書室の整備にも努めておられます。

副都心の高層ビルに位置する企業ライブラリーとしての様々な工夫を、技術本部技術管理部の大石明弘主任にお伺いしました。

——今年が創立20周年おめでとうございます。はじめに御社についてご紹介ください。

当社は1987年に発足した東日本旅客鉄道株式会社（以下JR東日本）の関連企業で、1989年に設立されました。本社は新宿で、仙台と高崎に地方事務所があります。また、新宿には弊社の子会社が2社あります。

業務内容はJR東日本に関わる駅舎、商業施設、宿泊施設等の建築設計・設備設計と工事監理が中心となります。主な実績としては、各駅舎、商業施設としては駅ビルのルミネ（LUMINE）、アトレ（atre）、駅ナカ施設のエキュート（ecute）、ディラ（Dila）、コンビニのニューデイズ（NEWDAYS）等、宿泊施設としてはホテルメトロポリタン・ホテルメッツシリーズ等、その他にフィットネスクラブのジェクサー（Jexer）、東京駅の東京ステーションシティ、さいたま市の鉄道博物館、また現在復原工事中の東京駅の赤レンガ駅舎があり、皆様にも馴染みの場所が多いのではないのでしょうか。「鉄道建築協会賞」にも何回も入選を果たしています。



——毎日のようにお世話になっている所ばかりです。まさに人々の生活に密着し、活動を支えておられる企業なのですね。図書室は、高層ビルにあるオフィス内のライブラリーとしてご苦労や工夫がおりだと思いますが、心がけていらっしゃることはどのようなことでしょうか。

図書室業務に携わるスタッフは2名ですが、他業務と兼務ですので、まずはスタッフが不在の場合でも社員が不便なく貸出や検索をできるようにと考えます。環境面では、やはり限られた所蔵スペースでの動線をどう活かすかを常に考えて、書架の配列も圧迫感が少ないよう、耐震にも気を配っています。

図書室の利用者は主に本社・子会社の社員となりますが、新宿だけでフロアが7ヵ所に分かれており図書室と離れたビルにもフロアがあるため、各部署で業務で常に使うものは要望を受けて購入・登録後、図書室に配架せずに各部署に無期限の長期貸出を行っており、業務終了後に図書室に返却していただいています。

図書室利用は基本的に社員のみですので、貸出カードを配布し、貸出・検索専用PCの設置によりセルフサービスでいつでも貸出手続きができるようにしています。「建築設計のシンクタンク」を目指し、図書室も日々整備を進めているところです。



——図書以外の資料も管理されていますが、分類は独自でしょうか。

図書室で扱う資料は、図書・雑誌のほか、映像資料、地図、新聞、成果物など多種多様です。図書は約7千冊、雑誌は約170タイトルで約1万冊ですが、雑誌は表紙情報をスキャンしてイメージ情報として、また建築系を中心に一部の雑誌では目次を内容細目に入力しており、社内ネットワークで公開中の「情報館WebOPAC」上で検

索も可能です。

図書は各部署の要望に対応して受け入れており、英国・米国の関係者から毎月建築関連記事を収集し解説を付けていただいたものを送っていただいております、図書室資料として閲覧・貸出をできるようにしてあります。

図書分類については、NDCを参考にして「JRE分類番号」を作成し、使用しております。大分類（建築一般、意匠、構造、鉄道など）と小分類の組合せにより、「Ba001」のように付与します。

—2004年に「情報館5.0」をご導入いただいてから約5年になり、2008年に「情報館v6」にバージョンアップしていただいておりますが、使い勝手はいかがでしょう。「情報館WebOPAC」検索画面はhtml言語でユーザーサイドでのカスタマイズが可能になっておりますが、大石様が作成されたページは、初めて使う方にも大変使いやすく工夫されていると感じました。

以前は、資料貸出時には貸出記録ノートに各自が記入して資料を館外へ持ち出しておりましたが、現在は「情報館」で貸出を管理しておりますので、所蔵の問い合わせなどにもすぐに回答できるようになりました。

また、社内ネットワークで各所からも「情報館WebOPAC」を検索できるようにしています。標準よりもシンプルな画面にしていますが、これは利用者である社員が時間を無駄なく利用できるよう考えて作成しています。たとえば細かいことですが、検索一覧の各ページフッタ部分に「検索結果一覧」へのジャンプリンクを追加するなど、社員のサイト上の動線を考えて作りました。



「情報館」システム導入により、利用者への情報提供の生産性は飛躍的に高まったと思います。

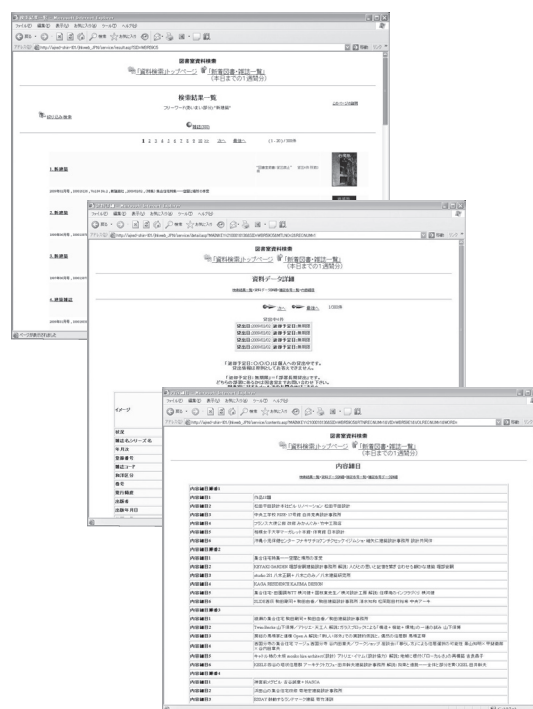
第一に、業務時間外や図書室が無人の時間帯であっても貸出手続きや所蔵検索がセルフサービスででき、社員の利便性が高まったこと。第二に、資料の所在確認が容易になり、各部署の貸出状況が管理しやすくなったこと。第三に、建築の専門知識を持つ社員自身が「情報館WebOPAC」イントラネットにて検索することで、目的の資料が貸出中でも他の利用可能な関連資料を利用できるようになったこと、などが挙げられます。

図書室担当者が「情報館v6」の操作上でわからないことや「情報館WebOPAC」のカスタマイズの可否をすぐにカスタマサポート部に確認することが出来ますので、助かっています。

—ありがとうございます。これからもご不明な点は何なりとお問い合わせください。

通勤や旅などで日々利用している駅だけでなく、ホテルやショッピングセンターなども御社の設計によるものと知り、さまざまな施設がより身近に感じられました。

ますますのご発展をお祈り申し上げます。



\*\*\*\*\*

株式会社 **ジェイアール東日本建築設計事務所**  
**JR EAST DESIGN CORPORATION (JRE 設計)**

http://www.jred.co.jp/  
 \*社外の方は利用できません。

